

三浦一族ゆかりの地を訪ねる

2018年3月11日

2018年12月追記

我部山民樹記

学生時代のクラブの仲間、先輩の K さん、N さん、同期の U さん、後輩の K さんと 5 人だ。小生だけ、今回から途中参加だ。

姉崎駅 6:05 発の電車に乗る。横須賀中央駅に 8:24 に到着。バスにて衣笠城址バス停に向かう。

NPO 法人のガイド S さんに案内してもらう。

行程は清雲寺→満昌寺→咳地藏→大善寺→衣笠城址→浄楽寺→逗子駅である。

三浦一族の主な人物

第 50 代天皇の桓武天皇を祖として、三浦姓を初めて名乗ったのが三浦義明である。義明だけは「介」では無く、「大介（おおすけ）」と呼ばれる。国司の長を「守」、次官を「介」という官職名である。地名に付けて三浦介とか上総介という。義明は尊敬の念を持たれていたので、特別に「大介」と呼ばれたのだろう。三浦宗家は義澄→義村→泰村で滅亡する。泰村の弟家村の末裔が美作勝山で生き延びる。

義村の弟が和田氏の始祖である。和田氏は和田合戦で北条義時に討たれて、滅亡する。

義澄は御家人筆頭の地位につき、義村の時代には北条氏と並ぶ全盛期を迎えた。義村が亡くなった後、宝治合戦（台頭してきた安達氏と北条氏に戦いを仕掛けられる）で宗家は滅亡。庶流の佐原盛連の子らが北条方について生き延びる。

庶流の末裔の中に家康の側室、お万の方（養珠院）がいる。紀州徳川家の家祖頼宣と水戸徳川家の家祖頼房の生母である。

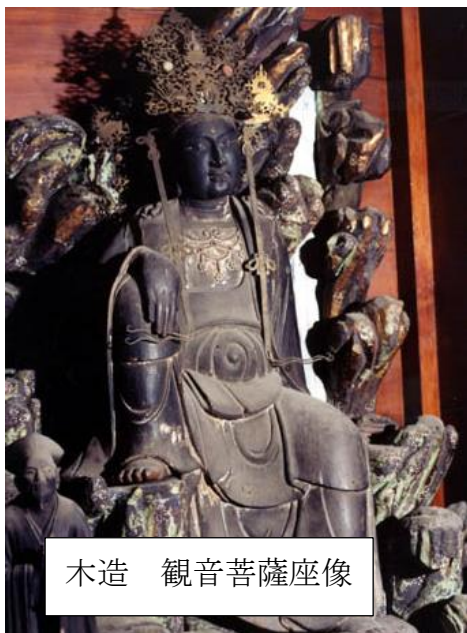
(1)徳川家康の側室(1548-1619//天文17-元和5) 小督局ともいう。父は永見志摩守吉英(淡路守貞英)、また村田意竹(田村意斎)との説もある。福井藩祖松平(結城)秀康を生む。1607年(慶長12)秀康没後、剃髪して長勝院と称した。(2)徳川家康の側室(1580-1653//天正8-承応2) 蔭山殿ともいう。父は正木左近大夫邦時(頼忠)、のち蔭山長門守氏広の養女となる。紀州藩祖徳川頼宣、水戸藩祖徳川頼房を生む。

三浦時綱が新井城の落城時に密かに逃れ、安房の国主里見氏の知遇を得て、里見氏の配下になり、勝浦に城を構えた。第4代城主正木頼忠の娘お万は勝浦城の落城した時に房総の三原に逃れ、さらに伊豆に流浪しているところを家康の目に止まり、玉の輿に乗って側室となり、流転の末に幸運を掴んだ。お万の方の実兄三浦為春は紀州藩家老となって甥の大納言頼宜公を補佐した。小説を書き、俳諧を能くした才人・文人であった。末裔に三浦栄太郎男爵が居る。一族は脈々と続いた。

‘三浦一族ゆかりの国重文仏像巡り’の資料を貰う。

清運寺

清雲寺は三浦義継が父為継のために建立。父に似せた毘沙門天像を彫らせ、本尊とした。運慶の系統を引く仏師の作と言われている。現在の本尊‘滝見観音’



木造 観音菩薩座像

は南宋より持ち帰ったものと言われている。南宋製と明らかな仏像と同じ印が腹部に彫られている。海洋民族の三浦氏は広く中国とも交易していたのであろう。

満昌寺

臨済宗建長寺派義明山満昌寺に向かう。義澄ら一族を衣笠城から脱出させた後、捨て石となって した三浦大介義明を開祖とする。頼朝がその勲功を湛えて建立した名刹である。国重要文化財の三浦義明座像が安置されている。



三浦義明坐像
(国重文)

衣笠城址

衣笠城址は小高い丘の上にある。比較的急登の道を登って行くと、しばらくするとたどり着く。お城らしき名残はほとんどない。ここは桜の名所だそう。ここで畠山重忠らに攻められ、利あらずとみた義明は嫡子義澄らを集め、生きて勲功をあげることを諭し、城から脱出させた。源氏再興の暁に子孫が要職に就くことを暗に願ったのことに他ならない。



浄楽寺

金剛山勝長寿院大御堂浄楽寺に路線バスにて移動する。ここには**運慶作の仏像が5体**ある。昭和34年に毘沙門天立像から出た銘札によって運慶作であることが決定的となった。運慶作と確認されている31体中の5体だ。国重要文化財だ。いずれ、国宝になるだろう。運慶の仏像が関東に17体あるそう。運慶は奈良の仏師だが20年ほど関東にいたらしい。**阿弥陀如来像、観音菩薩立像、勢至菩薩立像、不動明王立像、毘沙門天立像**、いずれも素晴らしい。衣のひだもこまやかに表している。運慶作以外の仏像とは全く異なる。資料に‘運慶の仏像は、その肉付きのよい体軀は重量感に富み、そこから力強さやエネルギーの強さが感じられる。この圧倒的な量感が現れる運慶の作風は東国の武士にも受け入れられたこともあって、運慶の作品は意外と東国に多い。’とある。細やかで生気が溢れている。運慶は日本のミケランジェロだ。いや、東洋のミケランジェロかも知れない。



運慶作 仏像

前島密翁の墓

浄楽寺の境内に「郵便の父」として知られる前島密翁の墓がある。江戸遷都を建言して大坂遷都派の大久保利通を動かしたと言われている。晩年、終の棲家としてこの地に暮らした。

前島密

生年月日：1835年1月7日

出身地：下池部

死没：1919年4月27日 (84歳)

前島 密は、日本の官僚、政治家。号は「鴻爪」。日本の近代郵便制度の創設者の一人で1円切手の肖像で知られる。「郵便」や「切手」、「葉書」という名称を定めた。その功績から「郵便制度の父」と呼ばれる。前島は晩年を別荘「如々山荘」で過ごした。 [Wikipedia](#)

以上